

学校経営力を高めるICT活用

ー 校内外への様々な仕掛け ー

愛知県教育委員会義務教育課 指導主事 玉置 崇

takashi_tamaoki@pref.aichi.lg.jp

キーワード：学校経営、ICT活用、グループウェア、校務の情報化

1. はじめに

筆者は、平成10年度から6年間の教頭職、平成16年度からは3年間の校長職を務めた。充実した学校経営をするために、「ICTを活用した学校経営」が有効であると考え、様々な取組を行った。

「学校リーダーメーリングリスト」や「デジタル生徒指導日誌」などの内部への仕掛け、「グループウェアを活用した通知表改革」や「学校ホームページ毎日更新」などの外部への仕掛けなどにより、確かに学校経営力を高めることができた。ここでは、それらのうち、いくつかの取組を紹介する。

2. 学校経営力

2.1 学校経営力とは

筑波大大学院教授の小島弘道氏は、学校経営力とは「地域や保護者の意向などを受け止めながら学校としてのビジョンを示し、実際に運営していく力」であると定義している。

筆者は、この定義に教職員の意向を受け止めることを付け加え、学校経営力を高めるには、まず、学校内外とのコミュニケーションを活発にし、多くの情報を得た上で、学校としての的確なビジョンを示すことが重要だと考えた。

コミュニケーションを活発にする方法として、ICT活用が有効であるとは言うまでもない。日常的に取り組むことができるいくつかの仕掛けを考えた。

2.2 学校経営力を高める仕掛け

(1) 校内内部への仕掛け

校内のリーダー同士のコミュニケーションを増すために、2種類の「学校リーダーメーリングリスト」と、教職員間の情報共有を容易にするために、各種の「デジタル日誌」を開設した。

(2) 校外への仕掛け

グループウェアを活用して教職員の負担を増やすことなく、年間20ページほどの通知表を提供したり、CMSにより学校ホームページの毎日更新を容易にしたりして、学校からの発信力を高め、保護者や地域とのコミュニケーションを増した。

3. 校内内部への仕掛け

3.1 学校リーダーメーリングリスト

(1) 5役メーリングリスト

「5役」とは、校長、教頭、教務主任、校務主任（愛知県独自の主任）、事務主査をさす。校長、教頭の管理職のほか、学校教育を推進する立場の者が、メーリングリストを活用して、日常的に、学校経営について意見交換を行おうという取組である。そこでは、例えば、以下のようなメールが流れた。

<例1> 本日の生徒会主催の行事は、これまで以上に生徒を全面に出し、生徒の自己有用感を喚起するものだった。

私からは、こうした取組を考えた生徒会担当のH先生に、行事の価値付けと感謝の気持ちを伝える声をかけておいた。ぜひ、皆さんも何かの折りに、声かけをお願いしたい。（校長）

<例2> 今度の職員会議で提案するプレゼンテーションを作りました。ご意見をください。（教務主任）→提案内容は申し分ありません。記憶に残る「キーワード」を加えると、さらに良くなると思います。（校長）

<例3> 給食費の未納の件で心配なことがあります。（事務主任）→次回の運営委員会の話題とします。（教頭）

例1は、教職員の頑張りを学校リーダーが認め、それを声に出していこう。それが教職員を育てることにつながるという思いから、発信したメールである。こうした思いの伝達には、メーリングリストはとても便利である。

例2は、いわば、提案についての電子決裁である。メーリングリストには、このタイプのメールが一番多く流れた。提案について返信することで、互いの考えを確認できるのが良い。例2では、プレゼンには「キーワード」が大切であると指示をした。教務主任だけではなく、他のメンバーもこの指示を読み、認識を共有化できる点も、メーリングリストを活用する利点である。

(2) 学校運営メーリングリスト

「5役メーリングリスト」の拡張版である。校長、教頭、教務主任、校務主任、事務主査、学年主任、生徒指導主事、保健主事、進路指導主事がメンバーである。主な目的は、メールで連絡を行うことだが、学年間の情報交流が途切れがちになるのを防ぎ、メーリングリストを通して、学校としての一体感をいつも意識しておきたいという意図がある。

